

第3学年音楽科学習指導案

平成21年9月25日(金)

指導者

渡山 志織



1 題材 きせつを歌おう

2 目標

- 日本で昔から歌い継がれてきた歌に関心を持ち、進んで歌唱表現をしようとしている。
- 日本のふしの特徴や美しさを感じ取り、曲想に合った表現を工夫することができる。
- 発音や発声の仕方に気をつけて、曲に合った自然で無理のない歌声で歌うことができる。

3 指導観

- 本題材は、日本で昔から歌い継がれてきた歌に関心を持ち、曲の情景を思い浮かべながら、歌い方を工夫するとともに、曲に合った自然で無理のない声で歌うことをねらいとして設定したものである。

中学年は、心身の発達が著しく、自己表現の意欲も高まってくる時期である。また、この時期は、自分の思いに合った表現ができるように、歌唱の際の発声や発音の仕方をさまざまな楽曲から感じ取り、演奏に生かしていくことが大切になってくる。

そこで、日本のふしの特徴を感じ取り、曲に合った演奏ができるようになるために、発声や発音、音色について工夫しながら歌唱する学習活動を設定した。

ここで取り扱う教材「うさぎ」は、歌詞の内容が子どもにとりて分かりやすく、自分の思いを表現しやすい曲である。また、日本のふしの特徴や美しさを感じ取るとともに、日本のふしに慣れ親しむことのできる曲である。

このような学習を行うことは、日本で昔から歌い継がれてきた歌に関心を持ち、曲に合った表現を行いながら音楽をより楽しむ心情を育てていくうえで意義深い。

- 子どもはこれまでに、2年時の題材「ようすをおもうかべて」で、歌詞の表す情景や気持ちを想像し、思いをもって歌う活動を行ってきた。歌詞の内容や曲想に合った歌い方を工夫して歌うことは、これからの学習によるところが大きい。

本学級の子どもは、音楽の学習に積極的に取り組む姿が多く見られる。声の出し方や音色に興味を持ち、きれいな声を出そうとする子どもも増えてきた。また、朝の会や月の歌を歌う場面では、音程を正しくヒリながら楽しく歌おうとする姿勢も見られる。学習の進め方においては、友達と協力しながら、自分の思いを表すための話し合い活動に積極的に参加する子どもが多くなってきている。しかし、音楽表現の豊かさや美しさには気づき、音色や曲想表現に気をつけながら表現を深めていく力は十分身に付いているとは言えない。

- そこで、本題材の指導にあたっては、曲の様子や雰囲気を感じ取り、日本のふしの特徴や美しさを感じ取りながら、曲に合った表現を工夫できるようにしたい。また、自分たちの声の特徴と聴き合い、美しい音色について感じ取りながら、自然で無理のない歌唱表現ができるようにしたい。

まず、導入では、お月見の経験や十五夜について知っていることを発表し、曲のイメージが膨らむようにすることで、子どもの興味・関心を高めることができるようにする。また、範唱を聴き、日本古謡独特のふしを感じ取ることができるようになることで、曲に合った歌い方を工夫するという題材のねらいをつかむようにする。

展開では、歌詞を朗読し、歌詞の内容を考えながら歌詞唱をすることで、曲の情景に合った歌い方を工夫することができるようにする。また、情景に合った歌の速さを工夫したり、前4小節、後4小節で交互に歌ったりすることで、曲の情景を思い浮かべながら、表情豊かに歌うことができるようにする。

まとめでは、発表会を行い、互いの演奏を聴き合うことで、互いの表現の工夫の違いやおもしろさを味わい、主体的な音楽表現への意欲が高まるようにする。

4 教材

- 「うさぎ」

(日本古謡) 4分の2拍子 ハ長調

5 指導計画

- (1) 教材曲を聴いて、「日本のふしを味わって」の活動への思いをふくらませ、題材のめあてをつかむ。ー1時間(2回)
- (2) 曲の情景を思い浮かべながら、歌い方を工夫し、発表会を行うことで、互いの表現のよさを味わう。ー1時間

6 本時の目標

- 教材曲を、正しいリズムや音程で歌うことができる。

7 指導過程

学習活動及び学習内容	指導上の留意点	資料・準備
(1) 本時学習について話し合う。 ○ お月見の絵を提示する。 ○ 「うさぎ」の鑑賞 ○ 本時学習のめあて 「うさぎ」の音でいもと、 きれいな声どうにおう。 (2) 学習の進め方について話し合う。 ○ 学習の進め方 ・ 「うさぎ」の音程取り ・ 歌の練習 ○ 時間配分 (3) 「うさぎ」の音程に耳を付けて歌詞朗唱をする。 ○ 音程取り ・ 全体で ・ ペアで (4) お月見の様子を思い浮かべながら歌う。 ○ 歌詞の朗読 ○ お月見の絵の提示 (5) 学習をふりかえり、まとめをする。 ○ 学習のふりかえり ○ 次時の学習の見通し	○ お月見の絵を提示することで、子ども達の学習への意欲・関心を高めることができるようにする。 ○ 鑑賞した後に曲の感想を聞くことで、曲のイメージをつかむことができるようにする。 ○ 子どものつぶやきや発言を生かし、めあてを設定することで、子どもが意欲的に本時の学習に取り組むことができるようにする。 ○ 学習の流れについて確認することで、子どもが主体的に見通しをもって、学習に取り組むことができるようにする。 ○ ピアノを使い、全体で音程を取り、ペアで確認し合うことで、一人一人のリズムや音程を把握し、助言を行うことで、正確なリズムや音程で歌えるようにする。 ○ 歌詞を朗読し、歌詞の意味を理解することで、お月見の情景を思い浮かべることができるようにする。 また、導入で用いたお月見の絵を再度提示することで、お月見の情景をイメージしやすくなるようにする。 ○ 本時の学習をふりかえり、子どもの取り組みに賞賛することで、自分たちの活動に満足感をもてるようにする。 ○ 次時は、「うさぎ」の歌い方を工夫して歌うということ伝えることで、次時の見通しがもてるようにする。	お月見の絵 CD めあてカード 学習の流れカード 拡大譜 ふりかえりカード

8 本時の学習評価規準

- 教材曲を、正しいリズムや音程で、楽しみながら歌うことができる。

(表現の技能) [観察・学習プリント]